

# 学校給食における食物アレルギー対応の見直しについて

令和6年5月

## 1 概要

食物アレルギーを有する子どもは、一人一人の原因物資が異なり、その症状も、口周囲の軽微な蕁麻疹でおさまる子どももいれば、数種類の原因食物をもち加工食品の選択が難しい子ども、原因食物の微量摂取で重篤な症状をきたすためにアドレナリン自己注射器(エピペン®)を常に携帯していなければならない子どもなど様々ですが、北名古屋市では個々の状況を把握し、給食を提供しています。

### 食物アレルギー対応食の検討から提供まで

- 1 食物アレルギー対応を希望する保護者が、関係書類を申請提出
- 2 申請書類に基づき、保護者と給食に係る関係者が面談により確認
- 3 献立を検討し、献立決定後、各個人のアレルギー献立表を配布
- 4 給食センターでのアレルギー対応食の調理、調理後の管理・配送
- 5 アレルギー対応食の学校での確実な受け取り、本人へ提供

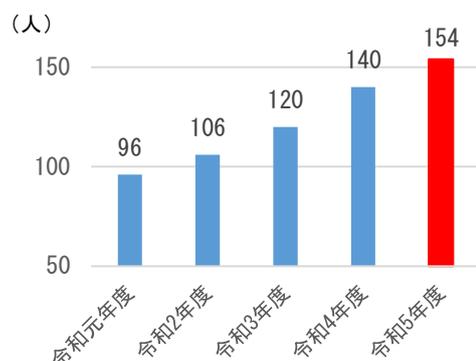
## 2 北名古屋市の対応品目

北名古屋市では、アレルギー特定原材料等 28 品目のうち、17品目について食物アレルギー対応食を提供する食品としています。

しかし、食物アレルギー対応が必要となる子どもが年々増えており、食物アレルギーへの対応が煩雑化しているため、事故が発生する可能性が高まっているという問題が生じています。



●食物アレルギー対応が必要となる子どもが増えています。



●北名古屋市では、17品目を対応食にて提供する食品としています。

17品目…卵・乳・小麦・えび・かに  
いか・ごま・さけ・さば  
大豆・牛肉・オレンジ  
もも・りんご・バナナ  
ゼラチン・やまいも

※周辺6市町の対応品目を平均すると、2.8品目です。

### 3 安全性を高めるための検討

家庭とは異なる集団給食の提供においては、施設状況、人員、時間などに限りがあるため、食物アレルギーの対応について安全性を再優先に考えて、どのようにしていくべきかを、「北名古屋市給食センター運営委員会」で検討を重ねました。

<北名古屋市給食センター運営委員会での意見(抜粋)>

- 「調理・配膳・食べる」の全ての段階において、対応品目が多ければ多いほど、ヒューマンエラーが多くなる。
- 対応品目を減らすと保護者が代替食を持参する必要があるため、これまでの提供してきた対応品目を何とか継続できないか。
- 担任一人で、アレルギー対応以外にも、衛生指導、けがや体調不良の対応が頻繁に求められるため、給食のアレルギー対応について安全面で心配なことが起きていることもある。
- 以前はアレルギーがあったけど、その食物が嫌いという理由でそのまま食べない子もいるのではないか。子ども自身にとっては食べられるようになった方が良いので、意識を変える取組ができないか。

### 4 今後の学校給食における食物アレルギーの対応

文部科学省の「学校給食における食物アレルギー対応指針」では、食物アレルギーを有する児童生徒に対し、安全性を最優先とすることが最も重要であることから、「北名古屋市給食センター運営委員会」での検討内容を受け、北名古屋市教育委員会では、今後の学校給食における食物アレルギーの対応について、以下の点について検討を重ねています。

- 学校給食における食物アレルギー対応食提供品目を、現在の17品目から、表示義務食品の5品目(卵・乳・小麦・えび・かに)に変更する。
- アレルギー面談における聞き取り事項について、対応の必要性を確認・検討する際に医師の知見を求めるなど、実施基準を見直す。
- 主食(ごはん・パン・めん)や飲用牛乳に対する対応内容を見直す。



### 5 給食における食物アレルギー対応について、ご心配な点等がありましたら、下記の二次元コードを読み取り、令和6年6月6日までに送信してください。

二次元コードを読み取ると「お問い合わせフォーム」が開きます。



・「お問い合わせ」については、個別の回答は差し控えさせていただきます、要旨としてまとめ、市ホームページに公表させていただきます。